

保育者の心理の研究方法

西 本 脩



幼児のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長する目的をもった幼児の施設保育を、効果的にするためには、いろいろな条件が必要でしょう。例えば、敷地の場所、建物の大きさ、室の配置、運動場の広さ、遊具、保育用具等施設、設備をとのえることや、編成のしかた、保育者一人の保育する幼児数、保育カリキュラム、保育方法等…の条件が挙げられるでしょう。けれども、これらの条件にもまして、最も重要なのは、保育者その人のよしあしであると思います。たとえ、どんなにその施設的环境がよく、設備が整っており、保育者の人数が多くて、その保育者の質がよくなければ、保育の効果を挙げることは出来ません。それどころか、或いは、保育目的に反して、幼児の成長発達に害を与えることになるかもしれません。施設や設備をとのえることにだけ心をうばわれて、すぐれた保育者をおくことを忘れるならば、ちょうど、立派な仏像を作っても、魂を入れ忘れたようなものでしょう。

又これとは反対に、たとえ、さほどよい環境には恵まれていなくても、或いはその施設や設備が十分にはとのっていないと、保育者が立派なよい人であるならば、それらの欠点を補って、よい保育をすることが出来るでしょう。もちろん、こうはいつでも、保育者さえよければ、施設、設備などどうでもよいというわけではありません。いつの場合でも、ある程度の施設、設備等やはり必要であり、最低限のものがなければ、どんなによい保育者でも、よい保育は出来ないでしょう。又、よい保育者が完備した施設を与えられれば、鬼に金棒であり、さらによい保育が出来るといえます。ですから、施設、設備をとのえることも、勿論大切ではありますが、けれども、繰返していいますが、どんなに設備がととのっているにしても、それだけではだめで、結局その施設、設備を生かすのも殺すのも保育者その人如何によるということです。つまり、幼児保育の効果は主として、保育者の質如何により、施設、設備のようなものは、第

二義的なものになります。

これと同じようなことは、小学校から大学までを通じて、すべての学校教育にも云えることで、教育上の効果は主として、教育者その人の適否如何によるものですが、中でも、幼児保育の場合は、保育の任に当る者の人格が、幼児におよぼす影響は少くないので、特にこのことが強調されるわけです。

そこで、一体、よい保育者とはどんな保育者であるかということ、つまり理想的保育者の資質ということが問題になります。それならば、どのようにして、この資質を決めましょうか。理想の保育者の資質を決めるに当たって、参考にしてよい方法は三つあります。その第一は、演繹的方法で、これは保育の本質から、理想の保育者の資質を決めようとするものです。例えば、ドイツの教育学者ケルシエンシュタイナーが、「協同社会のために精神的奉仕をする社会的人間」を教育の理想型と考え、その本質的資質として、(1)児童及び青年の個性的発展をはかることに最高の満足を

感ずること、(2)この傾向を効果的な方法で実現する能力をもつこと、(3)人格を診断する能力をもつこと、(4)生徒の発展に決定的な影響を与える能力をもつこと、を挙げています。これは教育者の資質の本質的なものを取り出したもので、深い心理学的洞察によつての教育心理学的研究の代表的なものとして、正木正氏の教育的人間の構造についての研究があります。正木氏は、現実的諸条件に規定されて公動している教師とは、区別される「教育的人間」を考え、それを「自己の措定する教育目的に向つて、全く自由意志をもつて努力していく、主体性をもつ」存在として把握し、その基本的態度・性格として、高い段階の教育愛、教育的情熱と、教育技術、さらに教育技術をふくみ、それを生かし、それをあるべき妥当な形で発展させるべきものとしての教育的叡知を分析しています。

これらの研究結果は、広い意味の教育者であり、教育的人間である保育者の理想像にも妥当であるように思います。けれども、演繹

的方法だけでは、特性がひじょうに概念的に、抽象的にしか分析されませんので、帰納的方法によつて収集された材料を参考資料として、抽象的な特性が具体的な形で表わされることが必要でしょう。第二の方法としての帰納的方法は、保育の実際から出発するものです。つまり、多くの保育者を観察し、或いは保育者に自己観察をさせて、保育者として成功するために必要な心身の特性や人格の性質、或いは成功の妨げになる特性や性質をとり出して、これを収集して、理想的保育者の心理図式を作成するのです。その多くは統計的方法によつて行われていきます。この方法によつて、よい保育者の特性を具体的な形で示そうとした研究の代表的なものには「コモンウエルス教師養成研究」です。この研究はチャーターズとウェーブルズによつて、一九二五年から三年間にわたつて教師養成課程改善のためになされたもので、よい教師の現実の、又あるべきすがたを活動や特性の形で描き出して、これを基にしてカリキュラム構成をし

ようという意図のものでした。研究の手続きとしては、特に教師の人格的特性に関して、四一名の教育行政家に面接して、よい教師、わるい教師のよい性質とわるい性質とをあらわす具体的行動を多数収集し、二一名の判定者の協力によって、これらが八三の特性に翻訳され、さらに意味の類似にしたがって二五群にはめこまれました。これらの特性は、さらに又他五名の教育行政家によって、上級中学校、下級中学校、中間学年、幼稚園—初級学年、農林学校の五つの型の教師にかんして、それぞれの特性の重要度にしたがって評価されました。ここでは繁雑をさけるために、幼稚園—初級学年（幼—二学年）のよい教師の人格的特性について、重要さの順に示すことにします。(1)思いやりがあること(よさがわかること、礼儀正しき、親切、同情、これを心得ていること、利己的などころがないこと)(2)熱心(機敏・活潑・鼓吹力・自発性)(3)人をひきつける力(近づきやすさ、快活、楽天主義、愉快さ、ユーモア感、

社交性、快適な声、機智にとむこと)(4)よい判断(思慮深き、先見、洞察、叡智)(4)きちんとしていること(清潔)(6)順応性(6)克己(静かさ、威厳、おちつき、ひかえめ、まじめ)(8)洗練(慣例尊重、よい趣味、道徳性、素朴)(9)正直(10)魅力・風采(10)健康(12)独創性(想像力、応用の才)(13)勤勉(忍耐・不撓)(14)注意深さ(正確さ・明確さ・徹底性)(15)興味の広さ(地域社会・教職・児童にたいする興味)(16)協同(人の役にたとうとすること忠誠)(17)信頼性(一貫性)(18)迅速性(キビキビしていること、時間勵行)(19)力づよさ(勇氣・決然としていること、堅固・独立・明確な目的意識)(20)進歩性(大望)(21)指導力(創始性・自信)(21)学識(知的好奇心)(23)流暢さ(24)偏見のないこと(25)節儉(以上のうちで、同番号のものは、重要さの順位が同であることを示します。)

ていますが、独立の要求の強い上級中学校(二〇—二学年)の生徒に関しては、思いやりがあることは第一七位とされているに過ぎません。又前者では熱心が第二位であるのに対して、後者では第九位、前者では人をひきつける力が第三位であるのに対して、後者では第一位です。又、前者ではきちんとしていることが第四位であるのに対して、後者では第二〇位になっています。きちんとしていること(清潔)はきわめて早期に習得することの出来る特性であって、幼稚園—二学年において子供の身につくようにすることが望ましいわけであり、したがって教師の特性としても重要視されているわけでしょう。逆に一〇—二学年では、興味の広さが第一位であるのに対して、幼稚園—二学年では第一五位、克己が第二位であるのに対して、第六位、指導力が第四位であるのに対して、第二位、力強さが第五位であるのに対して、第一九位、学識が同じく第五位であるのに対して、第二一位となっています。尚この他、下

級中学校（七・九学年）、中間学年（三・六学年）等の学年の相異によっても、評価順位がちがっています。子供はそれぞれの発達段階において、異った発達上の課題をもっているもので、その課題の解決に最高の努力を与える教師の特性も、それぞれ相異なるのが当然でしょう。教育を一層効果的にするために、単に一般的な人格的特性において欠点をもっていない教師を配置するということだけではなくて、子供の発達段階に応じて最も重要な人格的特性をそなえた教師を配置するという考慮が必要です。この意味からすると、小学校の（一）、二学年担任は別として）よい教師が、必ずしも幼児のよい保育者であるとは云えないでしょうし、又理想の教師像と理想の保育者像とは、幾分その性質を異にするでしょう。第三の方法としての歴史的方法は、古来の文献線研究によって、大保育者の特性を集録して、完全な保育者の像を得ようとするものであり、或いは保育者の資質や人格に關する古来の保育学者の論説を集録して、よい

保育者の特性をまとめようとする、よい保育者の特性をまとめようとするものです。シュナイダーが過去の教育学者の挙げた教師の資質をまとめて作成した心理的図式を挙げますと、表のようになります。以上、理想的保育者の資質を研究するのに参考となる方法を紹

理想的教師の心身の特性（シュナイダー）

年齢	身体	知識の性質	倫理的性質	純心理的で道徳的には中性的性質	特に教育的な才能の組成分
若い人（一） 老いたる人（二）	健康と力。抵抗捷。四肢の運動の敏捷。よき姿態。堂々たる外貌。明せきなる音声。	広範囲で深い知識（一）。大いなる専門的知識を要せず（二）。知識獲得の熱望。	調和的な性格（理想的な有徳なる人格、円満なる人間）。敬虔。敬神。道徳的純潔。真理の愛。公正（不偏不党）。平和への愛（同價な父兄との折り合いよきこと忍耐。物柔かく峻厳なべからず）（一）。峻厳にして確固たること（二）。寛大。傲慢。軽佻ならざること。厭越ならぬこと。職業に對する愛。勤勉。不撓不屈。道徳的明敏。貪欲ならざること。	高い知性（一般的な才能）（一）。特に理解の早い事、批判力、判断力。中庸の一般的才能（中位の頭脳）（二）。記憶力。觀察力。沈着。系統的思考力。活潑なる想像力。意識の明晰さ。豊かな感情生活。恒常な気分。無意志的な表示を制する力。衝動、嗜好等の節度あること。活動的。精力。心理的敏活さ（新鮮で、眠たげならぬこと）（一）。活動的。精力。性的性質（二）。注意力が広範囲にわたるかつかつ分配し得ること。	子供に對する不偏の、宗教的な、個別化的な、父性的な愛。子の効果に關する樂觀主義。若々しさ。生徒に對する信頼と、教育に對する熱心。教育教授の能力。常に警戒的なること（二）。教育教授への嗜好。教育教授の能力。教育を天職と感じて居ること。種々な生徒の個性に同感しそれを理解する能力。個性への同種力。朗らかさ。和諧。教授の喜び（一）。眞面目（二）。優位と權威との感情。話しづきと巧みさ（一）。沈黙（二）。敘述の才能。創造性。芸術的才能。心理デンプの違ふこと。心理学的知識の巧なる使用。心的態度を分別し得ること。

備考、表中（一）、（二）、とあるのは正反対と思われれる特性である。

理想の像を描かなければならぬですし、又外國の翻訳ではなくて、わが國の保育に適合したものを描かなければなりません。よい保育者になろうとする者は、その時代の、その社会の理想の保育者となるために、その修養の目標として、理想の保育者の資質について、いつも研究をつづけることが必要であると思